

「丹後の海の恵みを生かす」試験研究成果報告会

～府海洋センター・京都大学水産実験所・日本海区水産研究所で連携～

京都の海や漁業を対象に試験研究や技術開発を進めている3研究機関が連携し、丹後の水産資源の管理・増殖と利用に関する試験研究の最新の成果や取組について、講演、パネル展示等により広く府民の皆さんに紹介します。

漁業、水産物などに
興味のある方は、
ぜひお越し下さい！

- 1 日時 平成24年2月21日(火曜日) 13:30～16:20
- 2 場所 宮津市字鶴賀 みやづ歴史の館2階 文化ホール
- 3 主催 京都府農林水産技術センター海洋センター
(連携・協力) 京都大学フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所
(独)水産総合研究センター日本海区水産研究所
- 4 参集者 漁業関係者、商工観光関係者、海洋高校生、一般府民 約200名

5 内容

(1)府海洋センター試験研究成果報告 13:45～15:15

- ①おいしい海藻「丹後アカモク」を増やす
- ②育成アサリを新しい丹後の名物に！
- ③なぜ増えた？日本海のサワラ～その生態に迫る～
- ④スワイガニの持続的な水揚げを目指して～水ガニの保護～

谷口千恵
谷本尚史
戸嶋 孝
山崎 淳

(2)連携機関取組紹介 15:25～15:55

- ①舞鶴湾のナマコプロジェクト～資源の回復に向けて～
京都大学フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所

南憲史、大嶋真謙

- ②丹後海のアカアマダイを増やす

(独)水産総合研究センター日本海区水産研究所

竹内宏行

(3)意見交換 15:55～16:15

(4)パネル(発表課題、主な研究に関するもの)の展示、紹介

丹後アカモクを増やす



育成アサリを名物に

サワラの生態に迫る



水ガニの保護

アカアマダイを増やす



ナマコ資源を回復



お問い合わせは・・・
京都府農林水産技術センター海洋センター
電話 0772-25-0129
FAX 0772-25-1532

「丹後の海の恵みを生かす」試験研究成果報告会 発表概要

【府海洋センター成果報告】

1 おいしい海藻「丹後アカモク」を増やす

谷口千恵

ホンダワラ科海藻のアカモクは、ミネラルや食物繊維に加えて、健康によいとされる機能性成分を含む注目の素材であり、京都府では平成19年以降食用利用が進められています。しかし、アカモクは1年生の海藻で、年による豊凶の差が大きく、需要の拡大に伴って漁獲が増加すれば、翌年の資源への影響が懸念されます。海洋センターでは、資源を守りながら安定的に生産できる養殖技術の開発に取り組んでおり、今回はその内容について紹介します。

2 育成アサリを新しい丹後の名物に！

谷本尚史

全国的に漁獲が低迷しているアサリの有効利用を図るため、小型貝を大型サイズまで育成する技術の開発を進めています。阿蘇海でトリガイ養殖に準じた垂下飼育方法を使うと、アサリはこれまで他県で報告されている事例より、かなり短期間で大きくなることが分かってきました。今回は、いつ頃どれくらいの大きさの貝をどの水深で育成すれば良いのか、身入りが良くなる時期やその時期の旨み成分の含有量を調べましたので、それらの結果を紹介します。

3 なぜ増えた？日本海のサワラ～その生態に迫る～

戸嶋孝

近年、日本海で獲れるサワラが急増しています。京都府は日本一の漁獲量を記録した年もあるなど、日本有数のサワラ水揚げ地です。しかし、なぜ日本海でサワラが増えたのか、どこから来たのかなど、日本海のサワラの生態は謎に包まれています。そこで、増えたサワラを有効活用するために、日本海産サワラの生態特性に基づく漁獲量予測や利用加工技術の開発に取り組んでいます。今回は、日本海沿岸各県等と連携して研究しているサワラの移動回遊と利用状況について紹介します。

4 ズワイガニの持続的な水揚げを目指して～水ガニの保護～

山崎淳

ズワイガニの水揚量は、昭和40～50年代に乱獲などの影響で急激に減少しました。その後、保護区の設置など資源管理の取組みにより、水揚量は徐々に回復しています。この資源を持続的に利用する上で、新たな課題となったのが水ガニ（脱皮直後で殻の柔らかいオスガニ）の漁獲でした。京都府では、平成20年から全国初となる水ガニの漁獲禁止が行われていますが、そのきっかけとなった水ガニ保護の必要性や漁獲禁止の効果などの研究成果を紹介します。

【連携機関取組紹介】

1 舞鶴湾のナマコプロジェクト～資源の回復に向けて～

京都大学フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所 南憲吏、大嶋真謙

中国での需要拡大に伴いマナマコ *Apostichopus japonicus* の価格が急騰するなか、舞鶴湾ではマナマコの漁獲量が減少しています。そのため、舞鶴湾では資源回復に向けた放流用の種苗（体長3 cm程度のマナマコ）の確保が重要な課題とされています。本発表では、そうしたマナマコを取り巻く現状と、種苗の確保を目的とした技術開発（天然採苗技術、人工種苗生産技術）について紹介します。

2 丹後海のアカアマダイを増やす

独立行政法人水産総合研究センター日本海区水産研究所 竹内 宏行

アカアマダイは、自身でほのかに甘みのある上品な味で、京料理にも欠かせないおいしい魚です。「京丹後のぐじ」としてブランド化の取り組みも進められている大変重要な魚ですが、その資源量は減少傾向にあります。水産総合研究センターでは、丹後海のアカアマダイを種苗放流によって増やす研究に取り組んできました。天然魚から卵を採り、育てた稚魚に標識をつけて放流するまでの具体的な取り組みについて紹介します。